

ミゾゴイ

Gorsachius goisagi (Temminck)

コウノトリ目サギ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧 I 類

国カテゴリー 絶滅危惧 I B 類

選定理由

近年、全国的に個体数の減少と生息環境の破壊が叫ばれている。

形態

全長約49cm。雌雄同色。全体が栗色で、頭頂は濃い栗色。背中は暗栗褐色。体の下面はバフ色で中央部に栗色の縦縞があり、喉にも細く黒い縦線がある。

国内分布

本州、四国、九州、伊豆諸島の森林で繁殖。越冬地はフィリピンであるが、西南日本、薩南諸島などでも少数が残る。

県内分布

夏鳥として低山帯の森林に渡来する。夜行性のため元々繁殖の情報は少なかった。近年の調査で情報は少しずつ集まりつつある。

生態

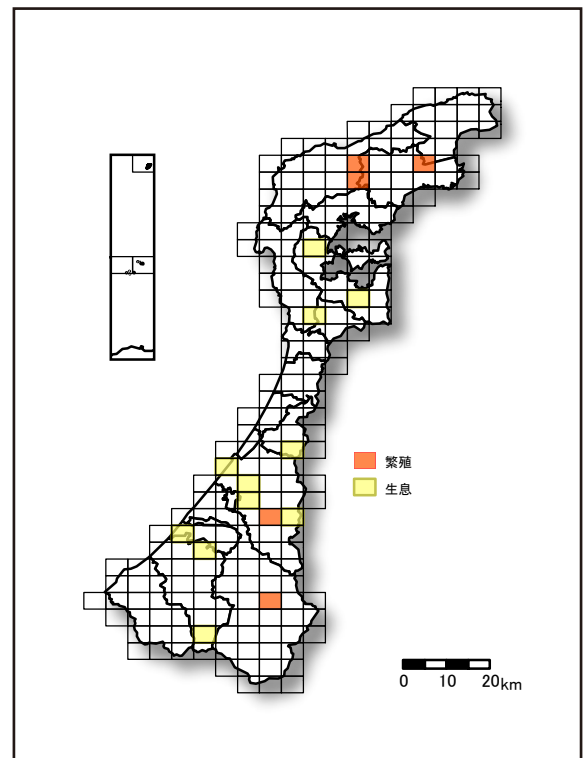
平地から低山帯の暗い林に好んで生息し、繁殖する。谷や沢筋、湖畔などでサワガニやミミズなどを捕食する。繁殖期は5～7月で、地上から数mにある横枝の又になった部分に、枯れ枝でキジバトの巣に似た皿形の巣を作り、3～4個の汚白色無斑の卵を産む。抱卵期間20～27日で雛がかえり、その後約35日親に育てられて巣立ちをする。

生息地の条件

里山の暗い林で、餌となるサワガニやミミズなどが豊富な中山間地の水田。

生存の危機

里山の開発と、中山間地の水田の耕作放棄による採食環境の減少。(A, B)



県内の分布